



農山村の魅力を活かし、新しい旅をスタイリング 提案型グリーンツーリズムで生み出す地域の元気

有限会社アグリテック

東川町

「実家が栃木県で農業を営んでいて、繁忙期には農作業の手伝いが当たり前。子どもの頃は正直、農業がキライだった」。東川町を拠点に、都市と農村を結ぶ「グリーンツーリズム」を展開するアグリテックの中田浩康社長の顔に、照れ笑いが浮かんだ。それでも中田社長は東京農業大学に進学、北海道のキャンパスで農業を学ぶ。「大学卒業後には、仕事で全国各地の色んな農業を見て回る機会に恵まれた。そこで知ったのは、ずっと地域を守り続けているのは農業生産者ということ。自分の親のすごさを初めて感じました。だから、地域でがんばっている農家を応援したいと思ってね。それにはやっぱり、農業王国の北海道が

いいかな」と移住までの経緯を振り返った。

北海道では、フリーの農村ライターとして活動。いち早く食育に目を向ける農業経営者との出会いなどもあり、農村の新しい可能性を肌で感じ取っていく。ちょうどその時期、東川町ではグリーンツーリズムの気運が高まっており、農村体験のプロデュースを目的として「アグリテック」が設立。中田社長も創立メンバーに加わり、ツアーやイベントの企画立案、コーディネートなどに知恵を絞った。苦労しながらも着実に実績を築き、修学旅行シーズンには、200人規模の農業体験も依頼されるようになった。

「単純に4人のグループとすると、50軒の受け入れ農家さ



んが必要。東川町内だけでは無理なので、周辺の町にもお願いする。少人数でやっているので、人のネットワークは大切ですね」と中田社長。その言葉の通り、様々な関係者をつなげ、付加価値の高いプログラムに導く「バイブル」として、地域における同社の存在価値を確立している。

「地元のガイドやインストラクター、食、農業をはじめ、観光でうまく地域資源を結べたら、提案の幅が広がる。それが新しいビジネスモデルにもつながる」と手応えを感じられるようになった。団体から個人への観光スタイルの変化にも対応。「海外からの観光客も増えてきており、よりインバウンドの受け入れを充実させたい。目指すのは、地域に暮らしているような旅。やりたいことを自由に選択できる、新たな旅をスタイリングしていきたい」と先を見据える。

全戸に地下水を供給、生活環境に優れ、個性的な店舗も多い東川町は、観光客だけではなく移住者も多い。半年前に埼玉県から夫婦で移住、建築業から転身しアグリテックの一員となった室井見さんもそのひとり。「旅行で来た時にいいなあと思ってはいたのですが、妻の方が移住希望が強くて。生活は自然のリズムでゆっくりできるし、自家菜園の楽しみもある。東川は移住してきている人も多く、住みやすいですね」と笑顔で話した。

中田社長は「移住の最も大きな問題は、仕事があるかどうか。新しく30万円の仕事を作るよりも、3万円の仕事を10件やる方が現実性が高い。ローカルワークの可能性として、そのように複業（多業）することも必要ではないか」と提言。さらに「色々な経験を活かし地域で連携していくことで、楽しく継続的に仕事ができる」と続けた。

必要とする人材は、「旅行会社、受け入れ農家、地域のガイドをはじめ、色んな人と交渉し、プランを作っていくかなくてはいけないので、まずコミュニケーション力は必要。そして地域や農業を元気にしたいという情熱を持った人。そういう人に、よそ者目線で地域の新しい資源を発掘してもらえたらいいですね」と期待を込めた。観光客が旅先で求めるものは、そこにしかないもの、そこでしかできない体験。そんなローカルアイデンティティが、地域をもっと面白くする。



profile

株式会社 有限会社アグリテック
北海道上川郡東川町進化台781-6 tel.0166-82-0800
代表取締役社長 中田浩康
設立 2003年7月
従業員 4人 ■2016年8月現在

【求人情報】

勤務地 東川町
勤務時間 9:00～18:00（休憩2時間）
給与 月額高卒以上16万円～（経験者優遇・各種手当あり）
福利厚生 各種社会保険完備
休日・休暇 週休2日
仕事内容 体験型観光企画・運営
備考 需要調査の後に面接。農業農村を元気にしたい人、まちづくり、地域活性化に情熱を持てる人歓迎

※求人情報は、平成28年10月現在の内容です。詳細については、各事業所にお問い合わせください。